

倭文庫三拾六編

安政三  
丙辰年  
孟頫新刻

~ 13  
3387  
9

錦里堂版

上





13  
3387  
9

釋迦八相  
倭文庫

第三拾六編上

万亭應賀作

歌川國貞画

丙辰春

開市

小畑

嘉永三年  
三月廿日  
小畑吉次  
長岡屋  
大賞贈  
田中

一

釋迦八相倭文庫三拾六編序

孔子の云君子に三畏有りといふ由良天命畏大人畏聖人  
言の二也小人不知天命而不畏神大人聖人の言を侮  
る是所謂佛の二歸依也彼小天命を畏る所は即是歸  
依佛なり彼小大人を畏る所は即是歸依僧也彼小聖人の言を  
畏る所は即是歸依法也叔四諦と六苦集滅道を公夫  
苦の生老病の教集の骨肉財物を聚集して滅の寂滅止  
息道の懐道修行を云也此文卷中小著とべきと畧  
て茲小載ると爾云

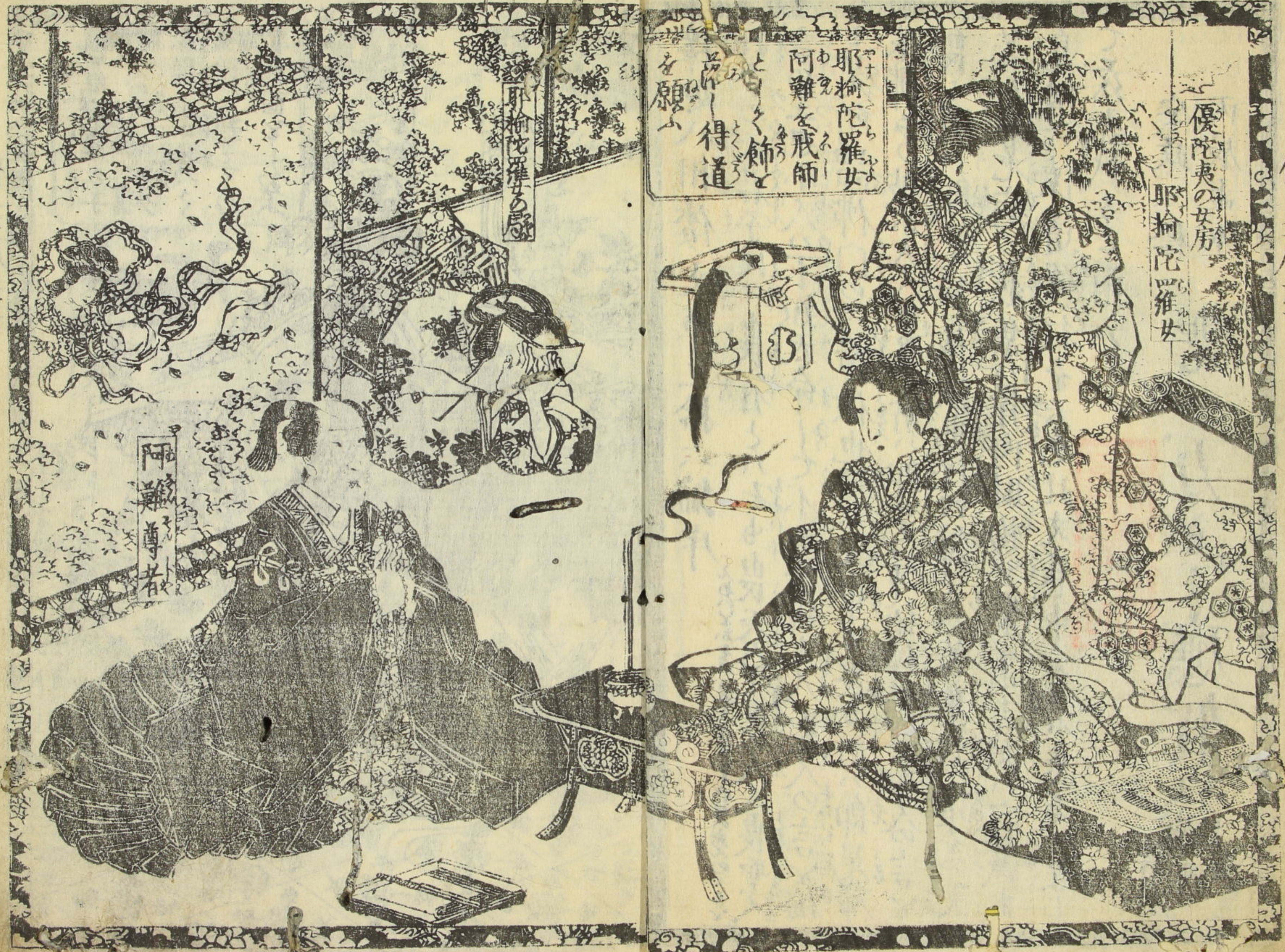
安政三檢  
丙辰孟陬

卯九

万亭應賀誌

〇





優陀夷の女房

耶輸陀羅女

耶輸陀羅女  
阿難を戒師  
とす飾と  
を願ふ  
得道

耶輸陀羅女の房

阿難尊者

阿難尊者





釋迦未

舍利弗

大正八年七月



羅喉羅太子  
父の片袖と  
陽山に携る  
初て親子乃  
對面とす

優陀夷

加旃延

優陀夷





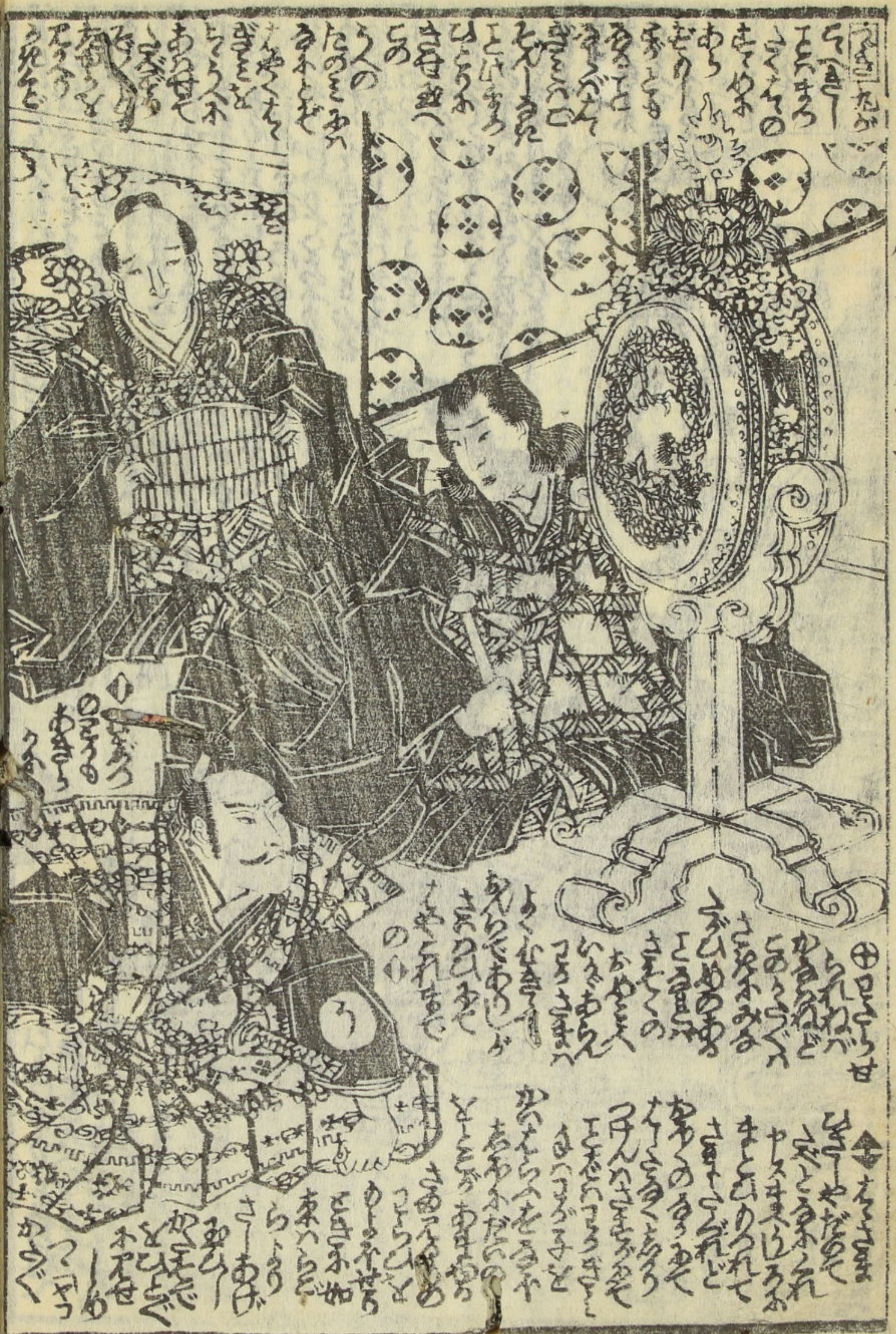








大正十一年七月



徳文庫刊

三



此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて

我法後三年  
過可善男  
子即是我因  
位為正法生  
來大善知識  
とありて

此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて

金利并  
肝の  
その  
その  
その

此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて

此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて

此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて



此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて

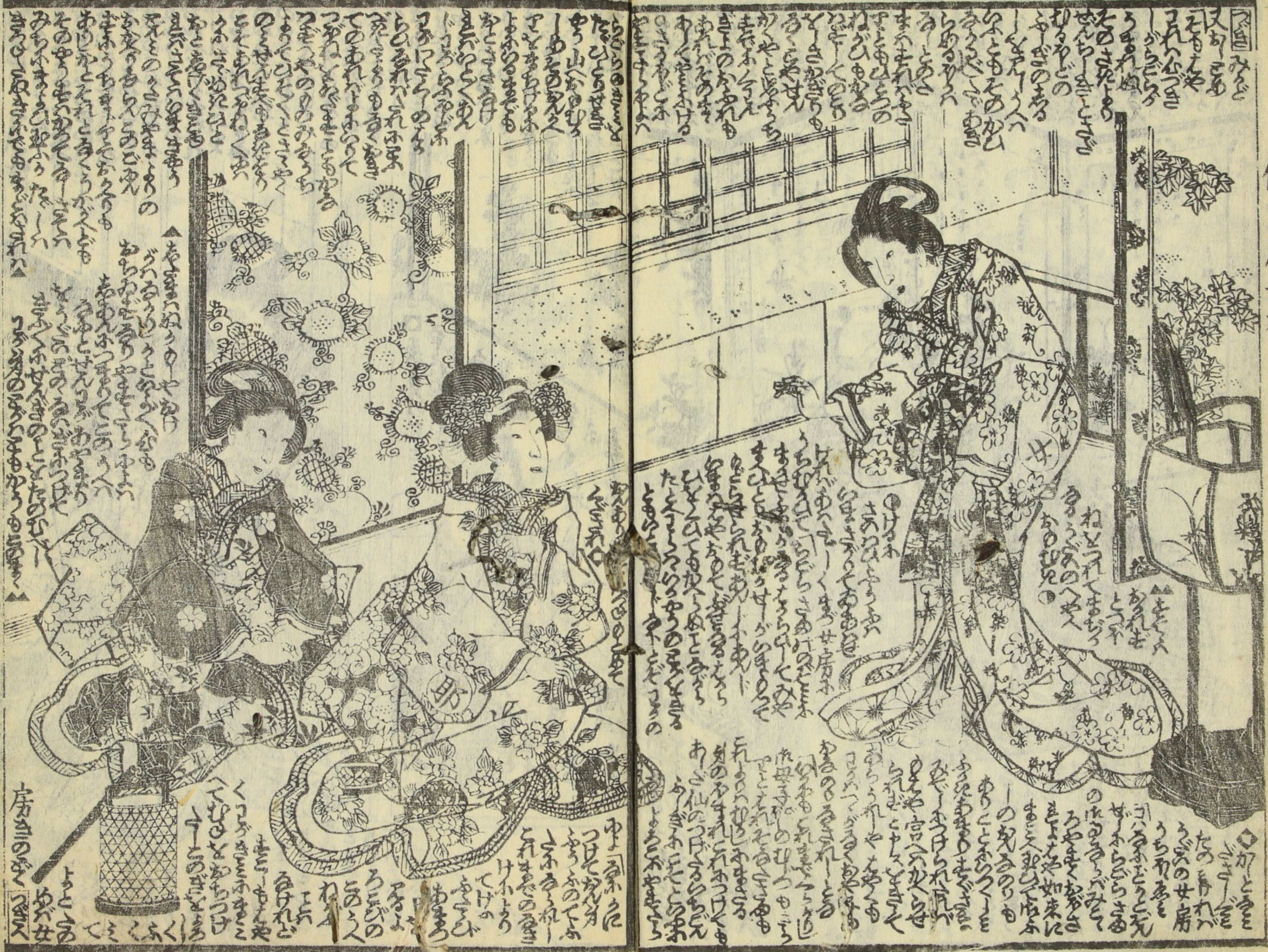


此のつらき事  
ありては  
まじか  
ひんて  
ひんて  
ひんて













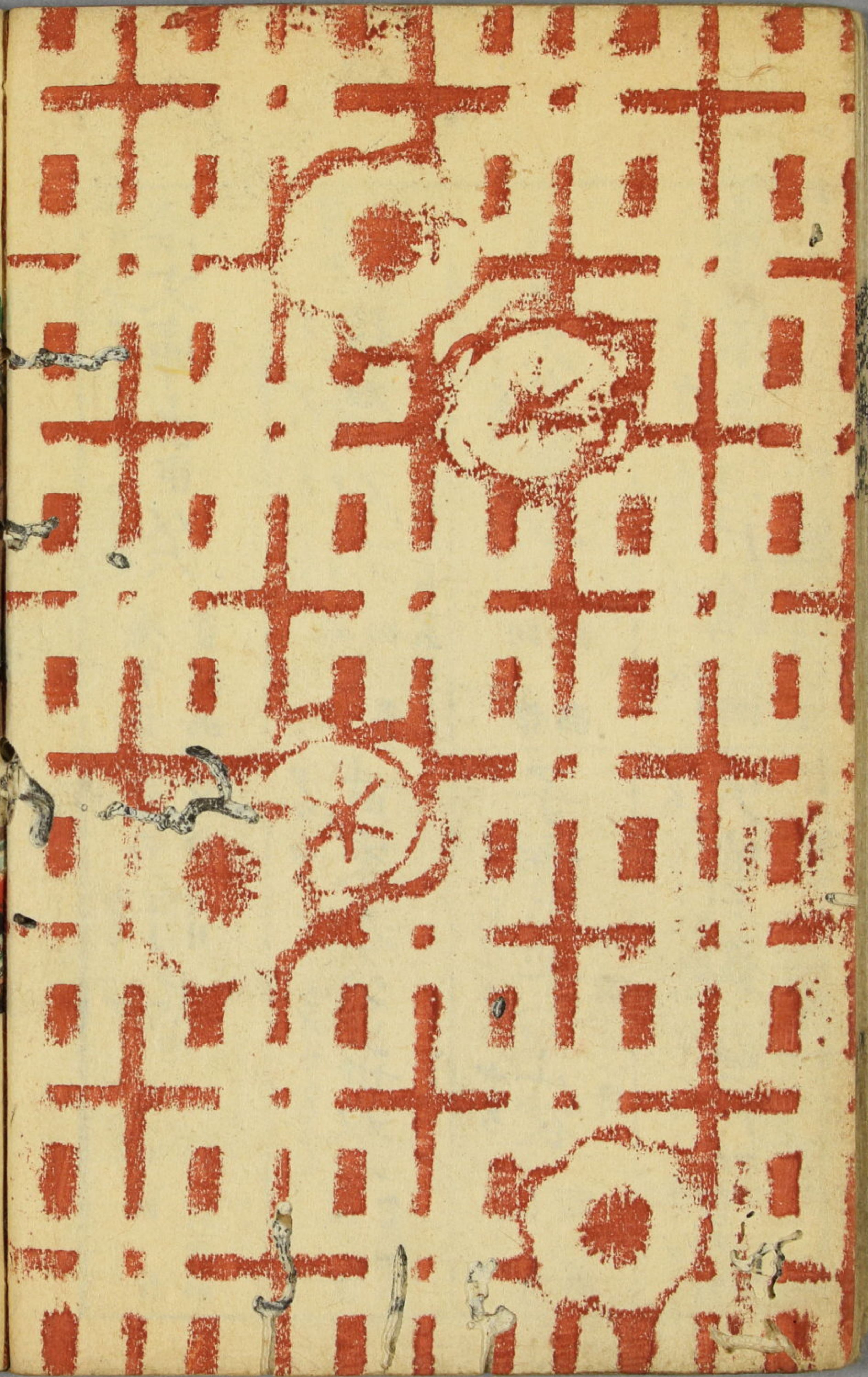






方亭應齋作

歌川國貞画













































倭文庫

四八編 四九編 五十一編

中應賀作 齋豐國画

重の井菱染別小紋

編揃為

永春水画

昔語小栗實説

二編同

松亭金水画

花山吹百人女郎

初編同

柳亭種彦画

浅草みやげ

五編揃十返

合一九画

常磐津懷中本

初編二編

小中七画

重繪州紙本類

三編四編

極上画

万亭應賀作



壽齋國貞画



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or description related to the illustration and the artist's work.



三  
拾  
六

